

気になって
いる先輩が居る
新体操部に体験入部したら、

そのまま性玩具として
調教された話。
サンドバッグ

The Nation of Head Scissors Presents

僕の通う学園で、新体操部に興味を持つ男は少ない。
男子部員が極端に少なく、女子中心の練習で、
やりたい体操が出来る環境ではないからだ。

そして、
“黒い噂”も少なからずあった……



でも僕は
ある女性を目当てに
体験入部に来た。



ネットで偶然見たユウカ先輩の試合。



新体操をベースに、
踊るように戦う姿は、

泥の中で咲く
“蓮の花”のように見えた。



そう、僕はユウカ先輩を近くで
見てみたかった・・・

君、中々硬いね。
ウチらの練習に
付いて来れるかな？



殿方の身体は元来固いものですわ♪
私が手伝って差し上げましょう♡



ユウカ先輩だ・・・



クッ

?



えっ・・・な・・・
何を・・・



ぐっ・・・
あっ・・・痛い・・・



久々に"ほぐしがいい"のある殿方ですわね。
でも我慢強いみたいですし、
次の荒治療にも耐えられそうですね♡





まだまだ固いですわね。
もう少し角度を付けて
差し上げましょう♪



あっ・・・
ちょっと、外して・・・
下さい・・・



ユウカ先輩、
この子技掛けられて勃起してますよ？
もしかして、ユウカ先輩に技掛けられたくて、
体験入部しに来たんじゃないですか？



裂

あ

おっか〜♡

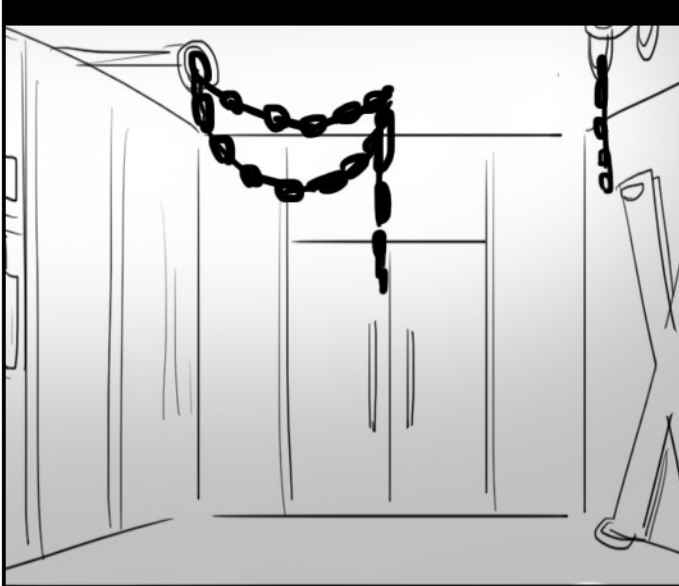
**7
S
L
V**

おれ

でも絞めが
強すぎ・・・

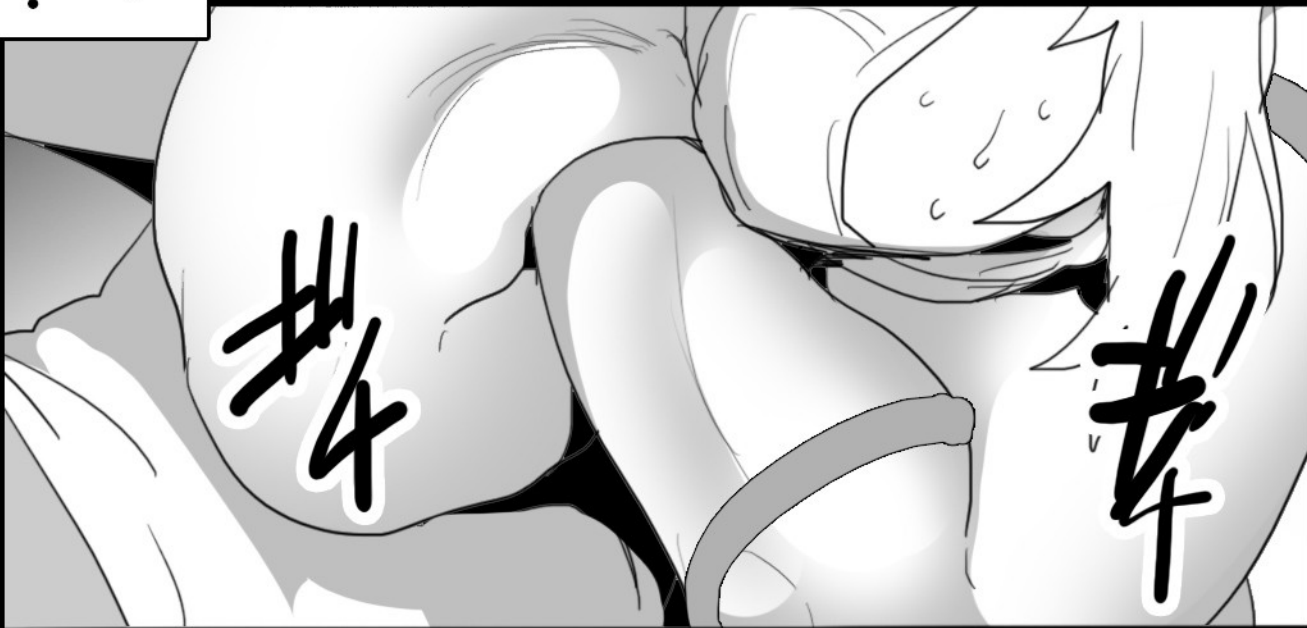


僕が目覚ますと、
学園内では見たことがない
拷問部屋のような所に
移動させられていた。



壁には極太の鞭、
刃物や磔台などが設置されている。
僕は女子新体操部の“黒い噂”は
本当だったのだと、確信した・・・

壁には極太の鞭、
刃物や磔台などが設置されている。
僕は女子新体操部の“黒い噂”は
本当だったのだと、確信した・・・



やっと起きましたか？



ンフ♪
私が一週間着続けた
レオタードのお味は
如何ですか？



グッ

わぁぁぁ...



貴方のような変態殿方は、
私達新体操部で”お仕置き”
してあげる事にしてますの♡

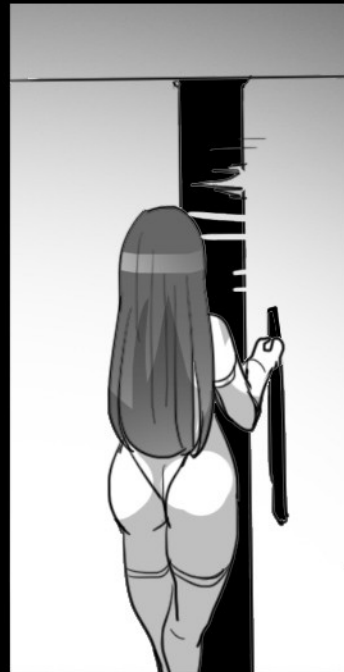
二度と変な気を起こさないように、
殿方の四肢とアソコを破壊する
場合もありますけど、
貴方は玩具になれる
見込みがありそうですわ♡



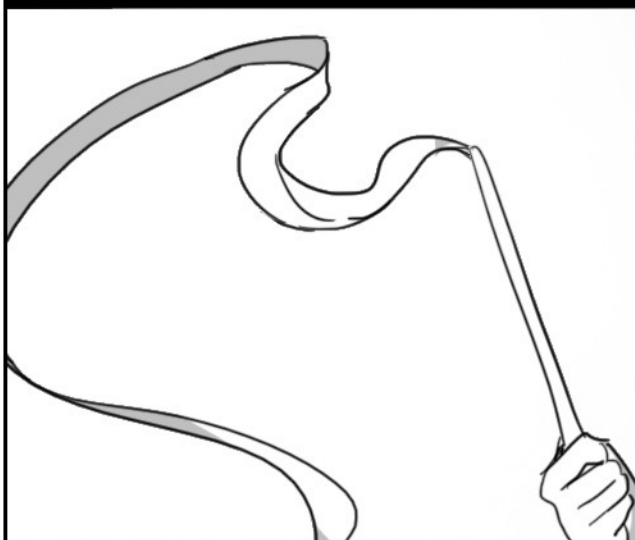
君の身体、骨がふにやふにやに
なるまで可愛がってあげる♡♡♡
防音の拷問室だから、
いくら泣き叫んでも大丈夫だよ♪



ユウカ先輩が僕を絞め落とした後、ユウカ先輩は部屋を出ていった。そして、女子新体操部員達からの拷問が始まった。



彼女達は新体操で使用する器具や、自らの身体を用いて、僕を嫩った。一つだけ幸いだったのは、鞭や刃物などの本格的な拷問器具を彼女達が使用しなかったことだ。また彼女達の会話から解ったのは、

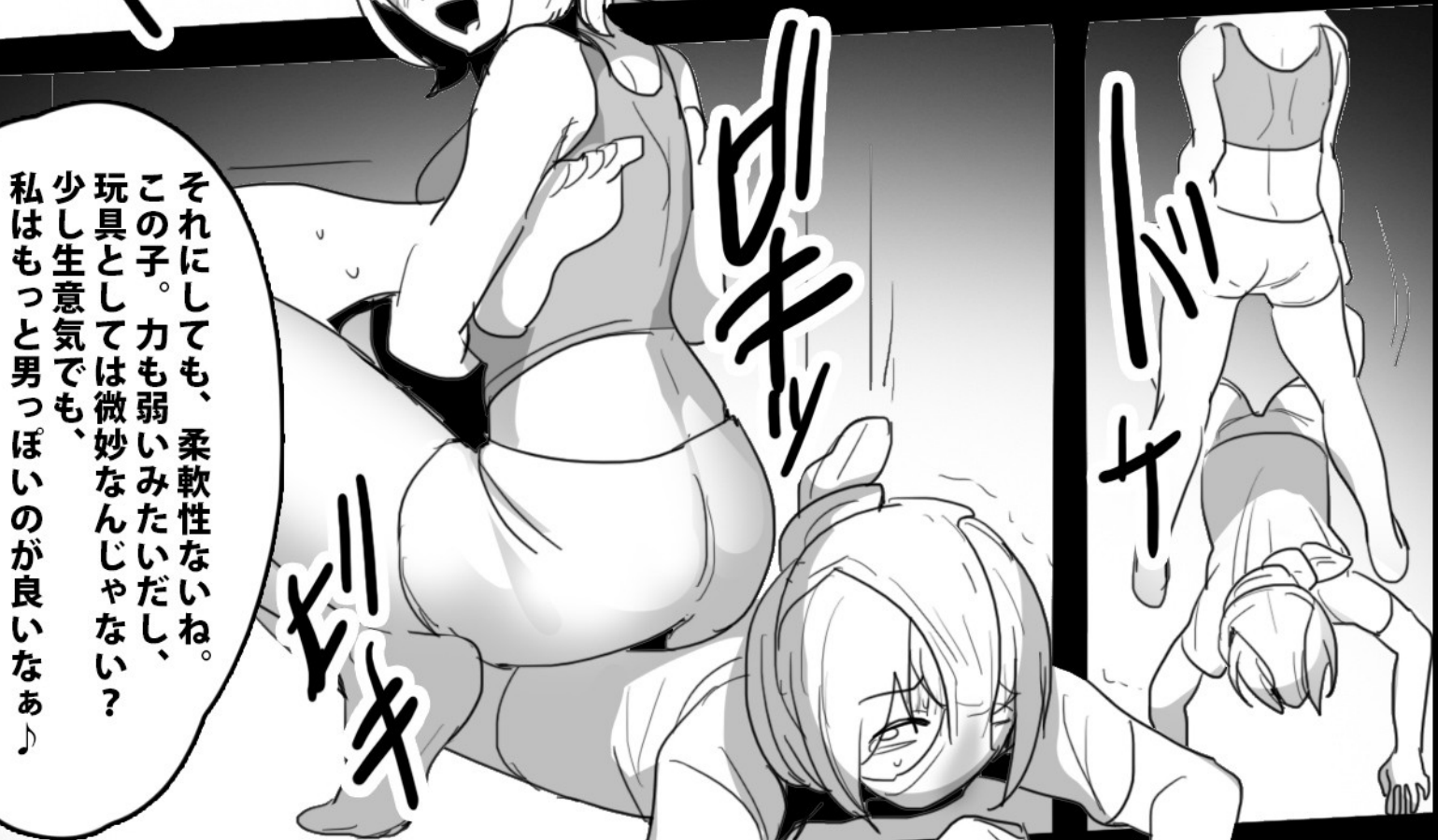


僕は女子新体操部の
「玩具候補」のようだった・・・

本当は鎖か鞭で絞め上げるのが一番良いんだけど、この子久しぶりに可愛いの、今日は我慢だね♡

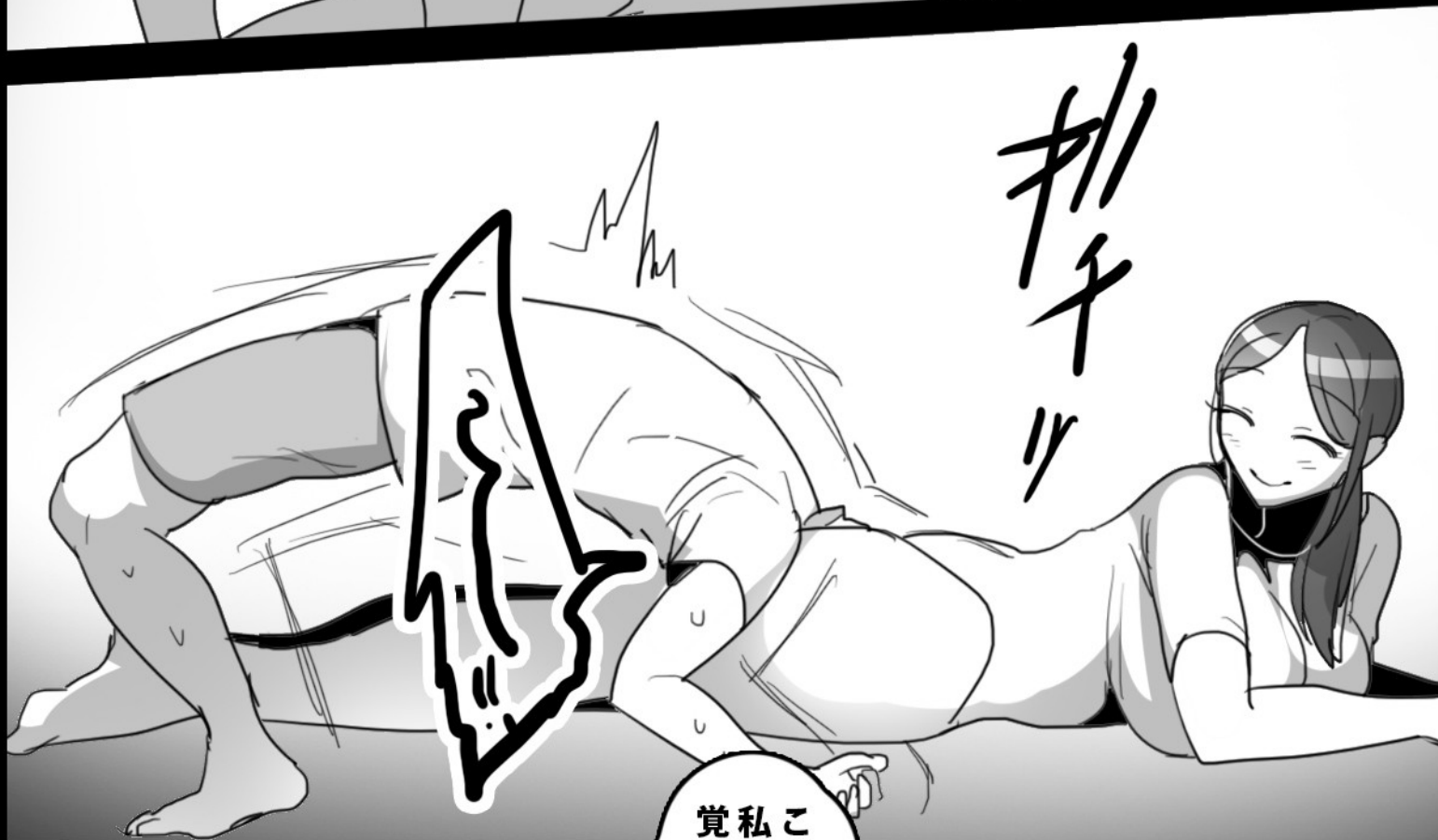


それにしても、柔軟性ないね。この子。力も弱いみたいだし、玩具としては微妙なんじゃない？少し生意気でも、私はもっと男っぽいのが良いなあ♪



痛いっ・・・痛い！





これから私達のミ玩具ミになるかもだし、
私の匂いを今の内にしっかり
覚えさせておこうかなあ♡



あはっ♪
この子、マゾの才能ありすぎて
壊したくなっちゃうね♡
ユウカ先輩の匂いもだいぶ
効いてるみたいだし、
もう普通の男の子には戻れないね♪



一体どれだけの間、
“お仕置き”されて
いたのか分からない。



僕の身体が壊れない
ギリギリの所で何度も絞め落とされ、
時間の感覚も身体感覚も
無くなりかけていた。

ユウカ先輩、
この子相当才能ありますよ♡
先輩の匂いとフェロモンも、
完全にこの子の脳みそに
染み渡ったみたいです♪

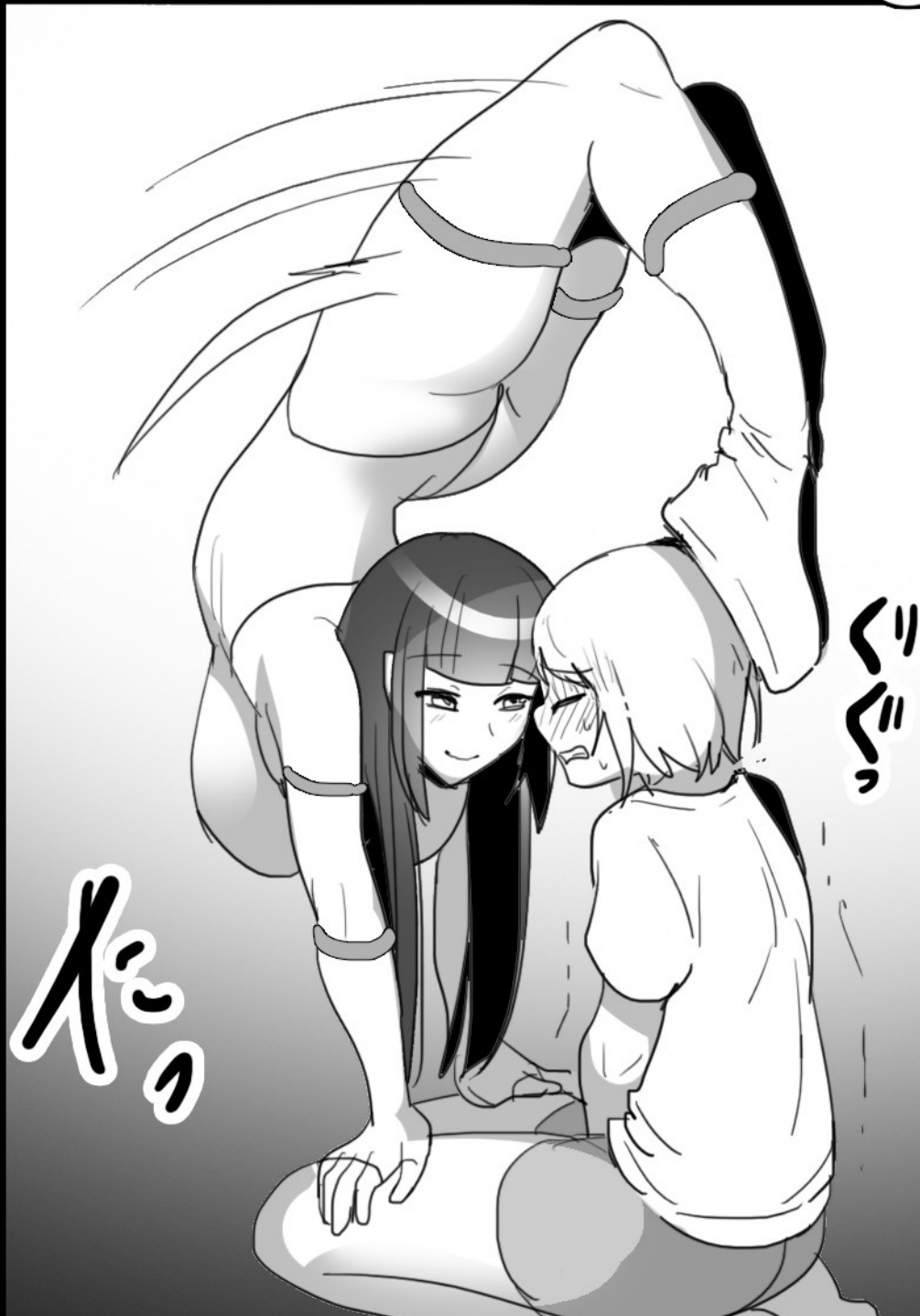


フフ♪だいぶ可愛がって
貰えたようですね♪
私の匂いもたっぷり
殿方の顔面にこびりついて、
とても素敵なお香りですね♡

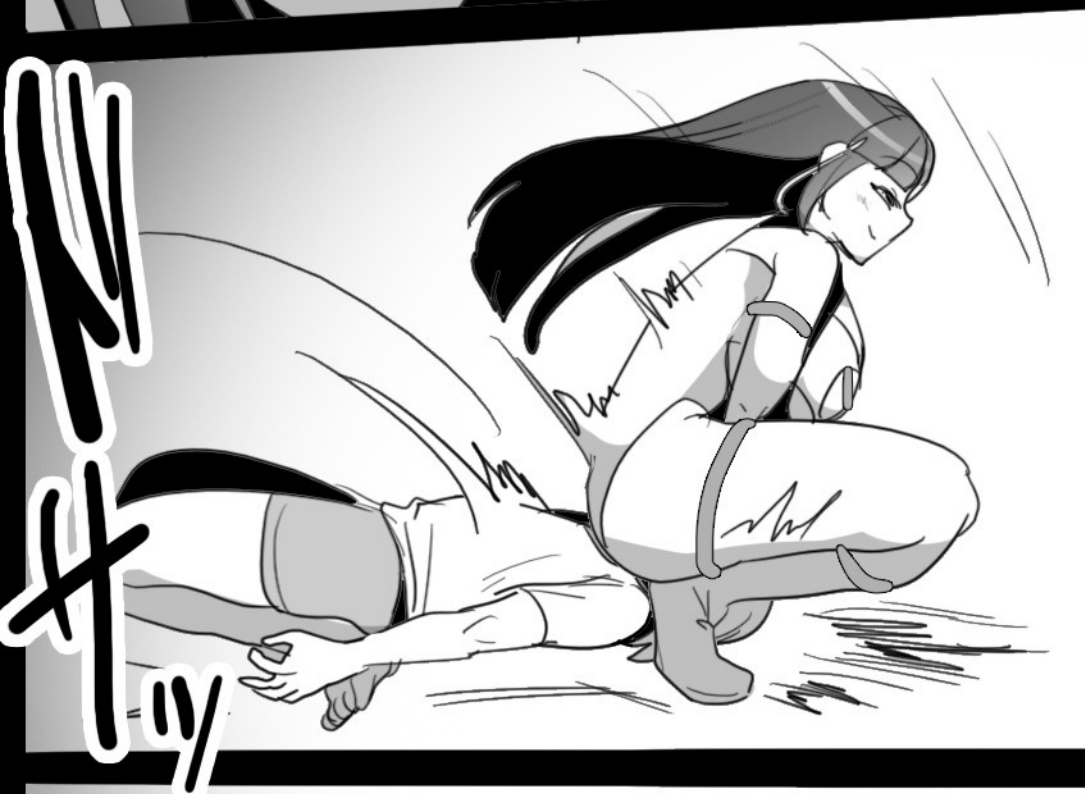


ユウカ先輩がまた現れた時、
僕は"蓮の花"が
見れると思っていた・・・
でも・・・

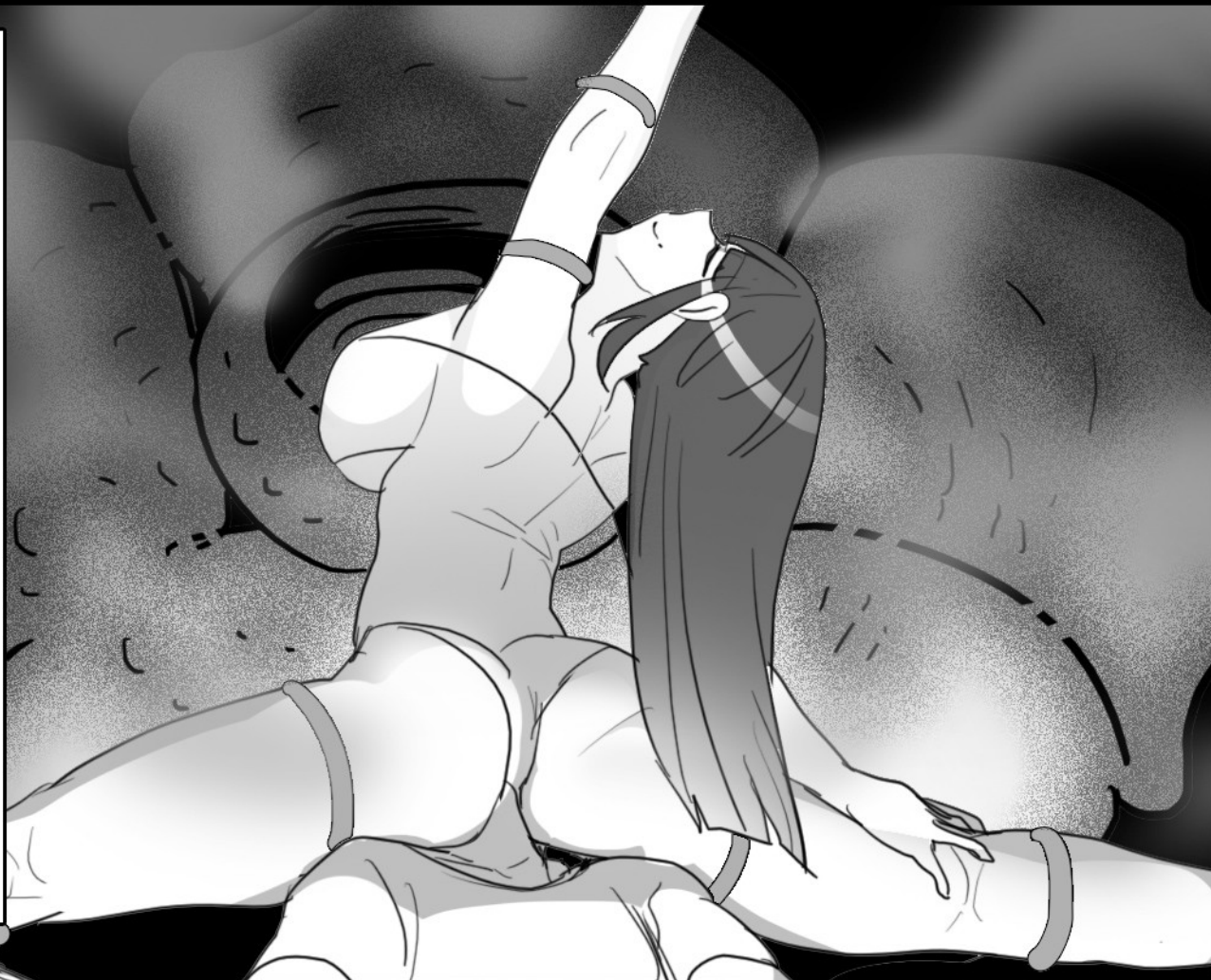
ゆ・・・ウカ・・・先輩？



合格ですわ♪
今日は特別に私の愛液をたっぷり
注ぎ込んで差し上げましょう♡



僕が見たのは、“蓮の花”ではなく、
獲物を自らの香りで惑わし、
深淵へと誘う“ラフレシア”だった。



そして僕はもうユウカ先輩の香りを
求めずにはいられない身体になっていた。



一滴でもこぼしたら、どうなるか・・・
賢い殿方はもうご存知ですね？



凄い愛液の量・・・♡♡♡♡♡
ユウカ様♡♡♡♡♡



アン♡自らしゃぶりついて来るなんて♪
私の愛液が体内に一定量入ると
依存症になるのに、
その様子ではもう手遅れですわね♡



私の巨尻を存分に楽しんで
頂けるラフレシアシザーズですわ♪
これで殿方の生死も私の思うがまま♪



お・・・ち・・・
ちやう・・・

でも・・・
下の殿方はかなり
反抗的なようですわね♡



下の殿方には、
きついお仕置きが
必要のようですわ♡

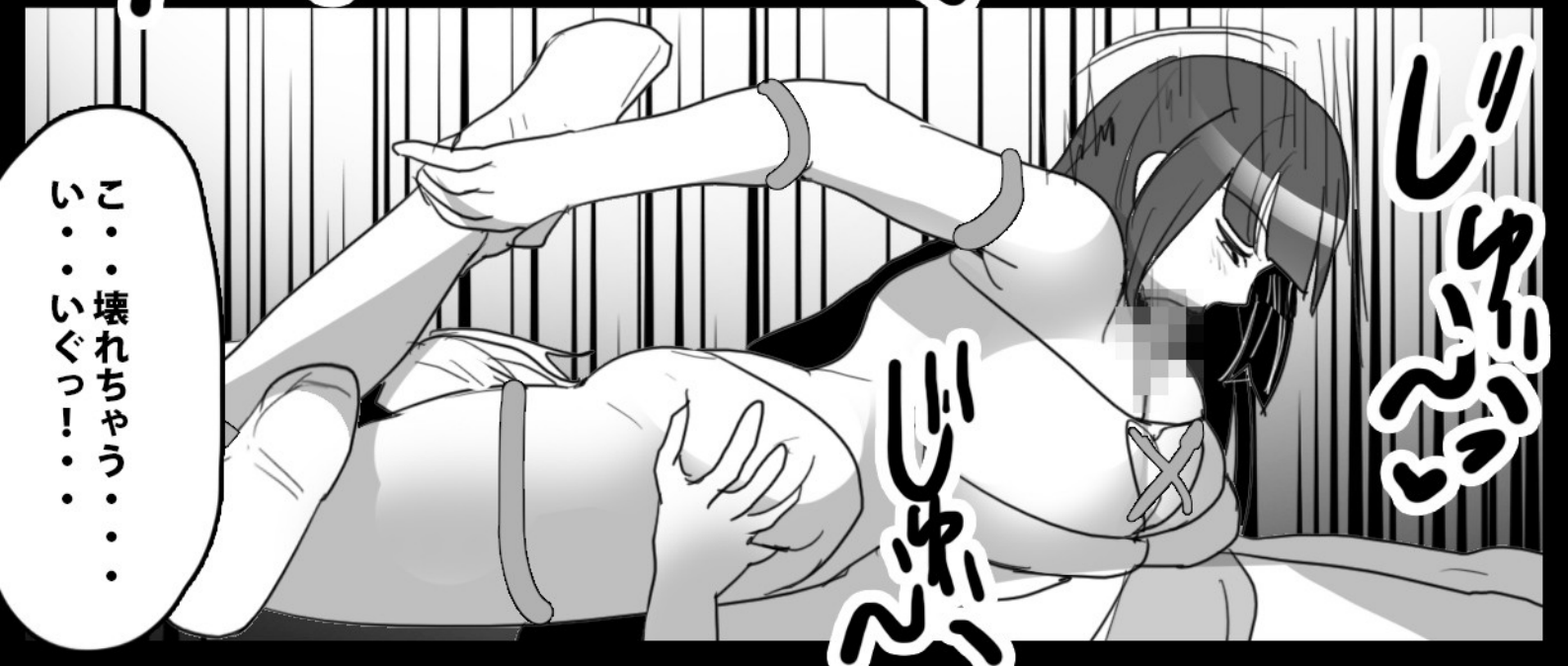


もうギブアップですの？
下の殿方は、意気地がないようですね
もっとお仕置きして差し上げましょう♡

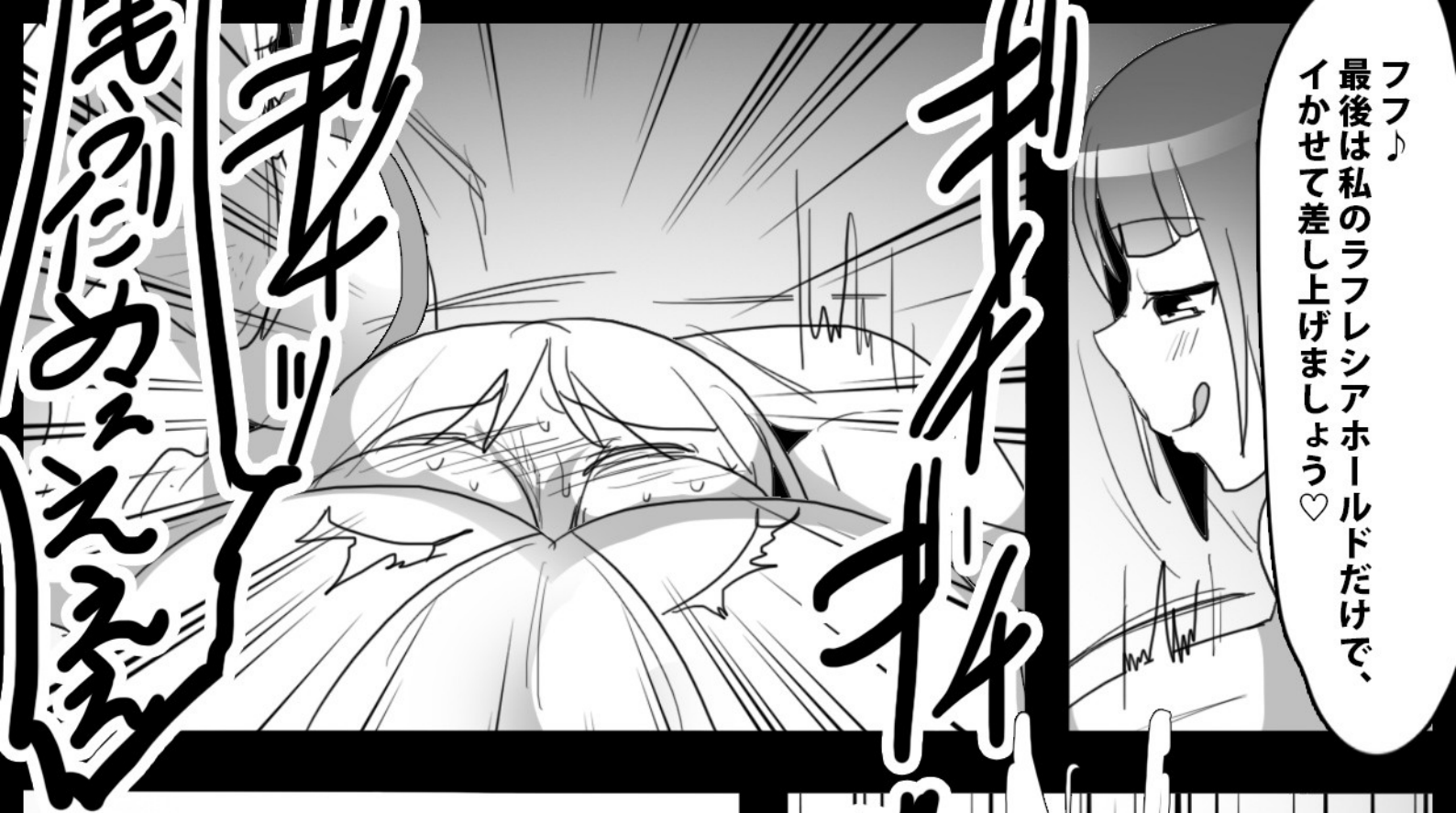


.....ぎゅ.....

まだイかせてあげませんわ♡
私、お仕置きは徹底的に
行う主義ですの♪



フフ♪
最後は私のラフレシアホールドだけで、
イかせて差し上げましょう♡



これから私達の玩具として
精進して下さいね♡

意識が途切れる寸前、
僕は邪悪な花の奥深く、
甘い蜜の中心へと飲み込まれて
いくような錯覚に捕らわれた。

それはきつと、僕の運命が今、
不可逆的に変わってしまった事を
暗示しているのだと思えた。



